5　　物忘れの嘆き 　　　　文法　動詞②　上二段・下二段活用

読解　心情の中心をつかむ

の中にとみにたづぬべきことありて、思ひめぐらすに、そのとばかりはほのかにおぼえながら、いづれの巻のあたりといふこと、①さらにおぼえねば、㋐ただ心あてにここかしことⓐたづぬれど、②え見いでず。さりとていと㋑あまたある巻巻を初めよりたづねもてゆかむには、いみじくいとまいりぬべければ、③さもえものせず、つひにむなしくてみぬるがいとしきままに、思ひつづけける。

　ふみ見つる跡も夏野の忘れ草ⓑ老いてはいとど茂りそひつつ

もとより物ⓒおぼゆること、いとしかりけるを、この近き年ごろとなりては、いとど何事も、ただ今見聞きつるをだに、やがて忘れがちなるは、いといと④いふかひなきわざになむ。

語注

ばかり（副助）＝①〜だけ。〜ばかり。②〜くらい。〜ほど。

いとま＝（時間的な）余裕。ゆとり。

ものす＝〜をする。

だに（副助）＝①〜さえ。②せめて〜だけでも。

基本古語

とみに（副）＝急に。

いとど（副）＝いっそう。ますます。

【原文】

漢文の中にとみにたづぬべきことありて、思ひめぐらすに、その書とばかりはほのかにおぼえながら、いづれの巻のあたりといふこと、さらにおぼえねば、ただ心あてにここかしことたづぬれど、え見いでず。さりとていとあまたある巻巻を初めよりたづねもてゆかむには、いみじくいとまいりぬべければ、さもえものせず、つひにむなしくて止みぬるがいと口惜しきままに、思ひつづけける。

　ふみ見つる跡も夏野の忘れ草老いてはいとど茂りそひつつ

もとより物おぼゆること、いと乏しかりけるを、この近き年ごろとなりては、いとど何事も、ただ今見聞きつるをだに、やがて忘れがちなるは、いといといふかひなきわざになむ。問一　次の「内容わしづかみ」の空欄に本文中の語句を書き入れよ。

探し求めたいことが、漢籍のどの［　　　］に書かれていたか思い出せない。もとからそのようなことはあったが、最近は、たった今［　　　　　　］したことさえ、すぐに［　　　　　　　　］になってしまう。

問二　波線部㋐・㋑の意味を選べ。〈3点×2〉

㋐　ア　むなしく　　イ　すぐに　　　ウ　唯一　　　　エ　ひたすら

〔　　　〕

㋑　ア　たくさん　　イ　さまざま　　ウ　いくらか　　エ　わずかに

〔　　　〕

問三　［チェック問題］動詞②　上二段・下二段

⑴　二重線部ⓐ〜ⓒの動詞の、活用の種類と活用形を答えよ。〈3点×3〉

ⓐ　〔　　〕行〔　　　　　　〕活用〔　　　　〕形

ⓑ　〔　　〕行〔　　　　　　〕活用〔　　　　〕形

ⓒ　〔　　〕行〔　　　　　　〕活用〔　　　　〕形

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 過ぐ |  | 基本形 |
|  |  | 語幹 |
|  |  | 未然形 |
|  |  | 連用形 |
|  |  | 終止形 |
|  |  | 連体形 |
|  |  | 已然形 |
|  |  | 命令形 |
|  |  | 活用の行・種類 |

⑵　次の活用表を完成させよ。〈1点×2〉

問四　傍線部①の解釈として最も適当なものを選べ。〈6点〉

ア　どの書物を探すべきであるのかということを、新たに覚えられないと、

イ　探し求めていることが何であったのかということを、ほとんど覚えていないので、

ウ　書物のどの巻に書かれているのかということを、いっこうに思い出さないので、

エ　探すべき書物がどこにあるのかということを、ますます思い出せないと、

〔　　　〕

問五　傍線部②を現代語訳せよ。〈6点〉

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問六　傍線部③の指す内容を本文中から二十五字以内で抜き出し、最初と最後の五字を答えよ。〈8点〉

〔　　　　　　　　　　〕〜〔　　　　　　　　　　〕

問七　和歌を詠んだ作者の心情が最も端的に示されている語を、本文中から五字以内で抜き出して答えよ。〈5点〉

〔　　　　　　　　〕

問八　傍線部④における作者の心情として最も適当なものを選べ。〈8点〉

ア　さっき知ったことをすぐに覚えようとする向学心を失った自分を恥じている。

イ　その都度新しく見聞きしたことに対して興味を持たなかった自分を悔やんでいる。

ウ　最近まで知っていたことをすぐに思い出すことのできない自分を情けなく思っている。

エ　何事についてもたった今見聞きしたことでさえ忘れてしまう自分を嘆いている。

〔　　　〕

【解答】

問一　巻／見聞き／忘れがち

問二　㋐＝エ　㋑＝ア〈3点×2〉

問三　(1)　ⓐ＝ナ行下二段活用・已然形〈3点×3〉

　　ⓑ＝ヤ行上二段活用・連用形

　　ⓒ＝ヤ行下二段活用・連体形

(2)〈1点×2〉

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 過ぐ | 寝 | 基本形 |
| 過 | （寝） | 語幹 |
| ぎ | ね | 未然形 |
| ぎ | ね | 連用形 |
| ぐ | ぬ | 終止形 |
| ぐる | ぬる | 連体形 |
| ぐれ | ぬれ | 已然形 |
| ぎよ | ねよ | 命令形 |
| ガ行上二段活用 | ナ行下二段活用 | 活用の行・種類 |

問四　ウ〈6点〉

問五　見つけることができない。〈6点〉

問六　いとあまた〜もてゆかむ〈8点〉

問七　口惜しき（4字）〈5点〉

問八　エ〈8点〉

【現代語訳】

漢籍の中に急に探し求めなければならない事柄があって、あれこれ考えるが、その書物とだけはぼんやりと思い出しながら、どの巻あたり（に書かれていたか）ということを、いっこうに思い出さないので、ひたすらあてずっぽうにあちらこちらと探してみるが、見つけることができない。そうかといってたいそうたくさんある巻を第一巻から探し求め続けるようなことには、たいそう時間がきっとかかるはずなので、それもとてもできないで、結局（その）甲斐もなくて終わってしまうことがたいそう残念なので、（その）思いを詠んだ（歌）。

踏んだ跡もなくなってしまう夏の野原の忘れ草ではないが、漢籍を読んだのに、それがどこに書いてあったのか記憶もなくなってしまうことが、年老いては夏草が茂るようにますます多くなってくることよ。

もともと記憶していることは、非常に少なかったけれども、近年になっては、いっそう何事についても、たった今見たり聞いたりしたことさえ、すぐに忘れてしまいがちであるのは、なんとも言いようがないほど情けないありさまである。

【補充問題】

問１　「つひにむなしくてみぬる」（４行目）とあるが、どういうことか。最も適当なものを選べ。

ア　探し求めようと思うが、どこから探し求めればよいのか見当がつかず困ってしまうこと。

イ　あてずっぽうに探し求めていると、探し求めることが嫌になってやめてしまうこと。

ウ　丁寧に探し求めていると、時間に間に合わず諦めなければならなくなってしまうこと。

エ　時間をかけて探し求めても、探し求めているものが見つけられずに終わってしまうこと。

問２　「夏野の忘れ草」（６行目）とは何を喩えているのか。最も適当なものを選べ。

ア　新しい情報を知ろうとしなくなってしまった作者。

イ　見たり聞いたりしたことをすぐに覚えられない作者。

ウ　一度忘れたことを思い出そうとさえしない作者。

エ　これ以上の成長が見込めなくなってしまった作者。

問３　現代語訳せよ。

①「さらにおぼえねば」（２行目）

②「やがて忘れがちなるは」（８行目）

【補充問題解答】

問１　エ

問２　イ

問３　①いっこうに思い出さないので　②すぐに忘れてしまいがちであるのは